

学童疎開新聞

令和二年
一月二十九日
赤坂 郁哉

熊毛の学童疎開

種子島が全滅した場合、「せめて子供たちだけでも残したい」という気持ちから爆弾をさけ、学童疎開することになった。

種子島が全滅した場合「せめて子供たちだけでも残したい」という父兄の気持ちだった。空襲に対する用心から見送りは部落内に留める。部落別編成の準備中に敵機襲来に遭い、児童三名負傷見送り父親一名死亡。



学童疎開

投下された時限爆弾を避け、荷物を抱え落とした食料を拾う間もないぐらい駆け足で西駅に移動乗車後空襲警報で待機。安心したところで、食事を命じ二十四時間ぶりの食事をとった。(全国で四十六万人の学童が疎開した。)

油久の学童疎開

母は、物資が乏しい中で着物を解いてカバンを作るなど、旅の準備をした。四月二十三日まだ暗い朝油久神社に集合した。木炭車の軍用トラック三台に乗り込んだ。どこにおいても食料難は深刻だった。のみしらみの駆除のため大鍋で衣類を煮た。船事情が悪かったが、油久は全員無事疎開することができた。

疎開中の食料

食料は現地調達したり、栽培で使う柄を抜いた鰯も持参したりして役に立った。食費は、一日七十銭(一円の二〇〇分の二)、薬クナギの青汁も、ちなみに、油久 求名村に二五一人が疎開した。



学童疎開中の食料

戦争中の油久の様子

授業は「天皇・軍人」中心で男児は軍人にあこがれた。

- ・防空壕掘り、防空壕避難訓練
- ・軍歌中心の音楽の授業
- ・「皇國に命をささげよ」話、
- 「軍人にあこがれる」話
- ・贅沢をさせないための弁当検査



戦争中の学校の様子

感想

僕は、学童疎開について調べた。調べる中で、学童疎開の悲しさなど知らなかった事も知ることができたのでよかった。